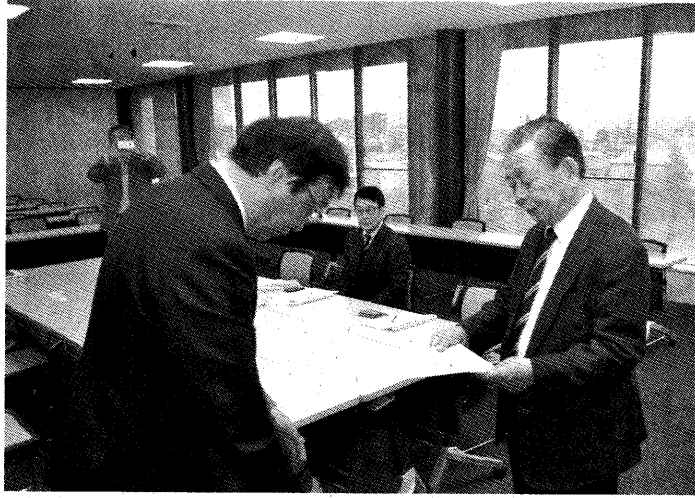


原発立地市並み安全協定

「引き続き連携して要請する」

市民団体の要請に出雲市

島根原発(松江市鹿島町片匂)の周辺5市に立地自治体と同等の安全協定締結を求めている市民団体「島根原発・エネルギー問題県民連絡会」(北川泉代表世話人)に対して、出雲市は20日、「引き続き(県内周辺3市と)連携して(中国電力に)要請していく」とする回答書を渡した。



同市と安来市、雲南 中国電力の清水希茂社長の首長は今年7月、長を訪ね、「事前了解」

付で安来市、同月29日 付で雲南市に行い、鳥取県内周辺自治体の

付で安来市、同月29日 付で雲南市に行い、鳥取県内周辺自治体の

付で安来市、同月29日 付で雲南市に行い、鳥取県内周辺自治体の

付で安来市、同月29日 付で雲南市に行い、鳥取県内周辺自治体の

と「措置要求」などの権限を定めた安全協定の締結を求めたが、4カ月後の10月になっても回答がないことから、県民連絡会が「現在審査中の2号機の原子力規制委員会の審査終了までに終える必要がある」として、市に積極策をとるよう求めていた。

要請は、10月18日

島根原発・エネルギー問題県民連絡会の保母事務局長(右)へ回答書を渡す持田俊司市防災安全担当部長(左)20日、出雲市役所

を受け取っており、安来市からは「3市で連携して引き続き要請する」、雲南市はより踏み込んで「2号機審査終了までに解決しなければならぬ問題」と回答があった。

は、3市で連携して早期の解決に取り組むと回答している。出雲市では、持田俊司防災安全担当部長が県民連絡会の保母武彦事務局長に回答書を手渡し、意見交換した。

ある。5市が反対する中で進めることは全国的にも大きな問題となる」と強調し、市に対して中国電力へのより積極的なアプローチを求めた。

取る予定。

同市民団体は、松江市に「周辺自治体と中国電力が立地自治体並みの安全協定を結ぶ事」についてどう考えるか回答を求めており、21日に回答を受け